黒翼の魔法使い

Lily

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
黒翼の魔法使い

【Ｎコード】
Ｎ９２１４Ｚ

【作者名】
Ｌｉｌｙ

【あらすじ】
とある城で働く魔法使いは、残業続きの毎日に嫌気がさし、転職を希望する。鬼畜の宰相様に無理やり転職させられた仕事は、勇者の仲間の魔法使いになることだった。しかし、魔法を使えるはずの勇者に魔法の才能はない上に、魔法を使えるように見せなければならない。それに、本人はそのことを知らない。やけに魔法を使いたがる勇者のために、陰で必死に魔法を使う魔法使いの仕事が始まった。

【プロローグ】（前書き）

三作目です。
完結できるように頑張りたいと思います。

【プロローグ】

百年と少し前、圧倒的な魔力を持ったモンスターが現れた。
モンスターは瞬く間に他のモンスターを従え、魔王と呼ばれるようになった。
竜の翼、狼の牙は人間を震えあがらせた。
「はっはぁ！　食っちまうぞてめぇら！！」
大好物が人間の、恐るべき捕食動物を倒したのは、一人の勇気ある人間。
「そんなに食べたら腹壊すぞ！！」
誰かが彼をこう呼んだ――勇者と。
勇者は少数の仲間と魔王を倒し、世界に平和が戻った。
戻った、はずだった。
魔王の意思を引き継いだ者たちが、現れたのだ。

【手紙は尽きない】

残業百時間。
四日と四時間である。
ありえねぇ。
ストライキでもしてやろうか。

「おっす、アストー。残業頑張れよー」

そう言ってベッドに入り、ぐーすかと寝息を立て始めたのはカール・ヘッグ。
金の短髪、今は閉じられている青い目。
中肉中背の体には、田舎にいる妹から送られてきたという奇抜なファッションのパジャマを着ている。
カールは憎たらしいくらい幸せそうな顔で寝ている。
危うく顔を踏み潰しそうになった自分をなんとか抑え、机に置かれている山のような手紙に目を通す。

一枚目　とある町の少女さんから
最近肩こりがひどいです。だれかマッサージしてくれる人紹介してください。

知るか。少女のくせに肩こりなんかするな。
丸めてごみ箱に投げ入れた。

二枚目　隣町の肉屋から
肉がまずいってクレームが来ました。おいしくする方法を教えて

ください。

まずい肉屋なんか潰れてしまえ。

また丸めてごみ箱に投げ入れた。

三枚目　夢の世界の住人から

……読んだらきっと目が腐る。

ごみ箱に投げ入れると、入りきらなくて落ちた。

ついに、ごみ箱もごみを拒否し始めたようだ。

僕の所属している国王直轄の組織、デルバルト国民の悩みを解決しよう会。

通称デル会。

このふざけた名前の組織は、国民から寄せられる様々な問題を解決するためだけに発足された会だ。　僕はそこの会長。

部下が動く必要がある問題と、そうでない問題を分けるのが仕事だ。

簡単そうに聞こえるこの仕事、実は百本ダッシュよりも大変な仕事だ。

国民から送られてくる手紙は一日に千通を越え、しかもほとんどがごみ箱行きのくだらない内容。

まともな手紙は一割にも満たない。

しかも、仕事があっても動くのは僕の部下。

僕は毎日手紙とにらめっこ。

「いっそ転職でもするかな……」

僕の脳みそは限界に近づいている。

その疲れ切った脳みそに鞭を打ち、今夜も僕は手紙と格闘するのだ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9214z/

黒翼の魔法使い

2011年12月28日21時51分発行